

平成18年6月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成17年11月11日

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社 （コード番号： 7707 大証 ヘラクレス市場）
 （URL <http://www.pss.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 田島 秀二 (TEL 047-303-4800)
 責任者役職・氏名 取締役業務本部長 秋本 淳

1 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無
 公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 無

2 平成18年6月期第1四半期の財務・業績概況（平成17年7月1日～平成17年9月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		当期(四半期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年6月期第1四半期	653	0.4	69	-	73	-	314	-
17年6月期第1四半期	650	27.1	48	-	42	-	43	-
(参考)17年6月期	3,215	28.3	132	-	111	-	64	-

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
18年6月期第1四半期	7,580	89	-	-
17年6月期第1四半期	1,037	68	-	-
(参考)17年6月期	1,552	25	1,502	22

(注) 持分法投資損益 18年6月期第1四半期 - 百万円 17年6月期第1四半期 - 百万円 17年6月期 - 百万円
 期中平均株式数 18年6月期第1四半期 41,468株 17年6月期第1四半期 41,468株 17年6月期 41,468株
 会計処理の方法の変更 無

売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

18年6月期第1四半期及び17年6月期第1四半期の営業利益等の対前年同四半期比増減率につきましては、営業利益等がマイナス値であるため記載しておりません。

18年6月期第1四半期及び17年6月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、新株予約権残高等がありますが、当期純損失が発生しているため記載しておりません。

18年6月期第1四半期及び17年6月期第1四半期に係る数値につきましては、監査法人の監査を受けておりません。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

	平成17年6月期 第1四半期 (前年同四半期)		平成18年6月期 第1四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率	参考 平成17年6月期 (通期)	
	金額	百分比	金額	百分比		金額	百分比
	百万円	%	百万円	%		百万円	%
売上高	650	100.0	653	100.0	0.4	3,215	100.0
売上総利益	269	41.4	268	41.2	0.2	1,509	46.9
営業利益	48	7.4	69	10.6	-	132	4.1
経常利益	42	6.5	73	11.2	-	111	3.5
当期純利益	43	6.6	314	48.1	-	64	2.0

当第1四半期は、連結売上高 653 百万円(前年同期比 0.4%増)となりました。前年同期には、韓国企業に対する「全自動タンパク質合成システム」に関する、日本を除くアジア圏での独占販売権の対価として 100 百万円の収入がありました。当第1四半期は、そういった収入がありませんでしたが、主力製品である DNA 自動抽出装置等やプラスチック消耗品などが前年同期を上回る順調な販売実績となったことから、若干の増収を確保いたしました。当社製品は、OEM(相手先ブランドによる販売)を中心に展開しており、主力 OEM 先であるロシグループ、キアングループともに、例年、夏場を含む第1四半期は、出荷が低調になる傾向がありますが、その中においては順調に売上拡大したものと

考えております。売上総利益は、268 百万円(前年同期比 0.2%減)となり、結果としては、売上高、売上総利益ともに前年同期並みの着地となりました。

一方で、開発費 101 百万円(前年同期比 11.4%増)や海外子会社の人員増加や設備拡充に伴う諸経費の増加などにより、販売費及び一般管理費は 338 百万円(前年同期比 6.5%増)となり、この影響などから、営業損失 69 百万円(前年同期比 21 百万円の増額)、経常損失 73 百万円(前年同期比 31 百万円の増額)となりました。前年同期比で若干の赤字拡大とはなりましたが、現在の受注状況は順調であり、販売費及び一般管理費も予想範囲内にて推移しておりますので、第 2 四半期以降での回復は十分に見通せるものと考えております。

また、当連結会計年度からの減損会計適用により、当第 1 四半期において特別損失 237 百万円を計上しております。減損処理の対象は、平成 2 年 8 月に取得した松戸市に所在する旧研究所であります。平成 13 年 3 月までは、研究所として利用していましたが、本社移転に伴い閉鎖しております。現在は、使用していない装置・器具類を収納する倉庫代わりに使用しておりますが、遊休資産であるため、土地・建物の時価評価との差額および使用していない装置・器具類を減損処理の対象といたしました。その影響などから、当期純損失 314 百万円(前年同期比 271 百万円の増加)となりました。なお、減損処理した旧研究所に関しましては、当期中に売却する方針であります。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

	平成 17 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)		平成 18 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)		対前年同期増減率	参考 平成 17 年 6 月期 (通期)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
ロシュグループ	259	39.9	364	55.7	40.3	1,456	45.3
キアゲングループ	197	30.3	180	27.7	8.4	1,069	33.2
(株)三菱化学ヤトロン	17	2.8	32	5.0	81.0	218	6.8
その他	175	27.0	75	11.6	56.9	471	14.7
合計	650	100.0	653	100.0	0.4	3,215	100.0

当社の主力製品であります DNA 自動抽出装置等は、OEM を通じてワールドワイドに販売されております。OEM 先としては、ロシュグループ、キアゲングループ、そして今年 4 月からユーザー向けに販売開始となった小型免疫化学発光測定装置「PATHFAST」を供給している(株)三菱化学ヤトロンの 3 社を主力 OEM 先と位置付けております。装置の利用に伴い消費される専用のプラスチック消耗品についても、OEM 先を通じて販売されております。

ロシュグループに関しましては、DNA 自動抽出装置、プラスチック消耗品ともに、前年同期を大きく上回る順調な販売状況となりました。

キアゲングループに関しましては、昨年から好調を維持しているコンパクトタイプの DNA 自動抽出装置「BioRobot EZ1」は、前年同期を上回る順調な出荷となりましたが、ワークステーションタイプの中型機「BioRobot M48」について、当第 1 四半期での出荷は低調でありました。その影響から、前年同期を下回る結果となりましたが、受注状況は好調なことから通期では特段の問題はないものと考えております。

(株)三菱化学ヤトロンに関しましては、「PATHFAST」が今年 4 月から国内販売を開始したことから売上増加となりました。11 月には海外販売開始が予定されており、初期在庫確保の観点から、現在 296 百万円の受注残をいただいております。すべて第 2 四半期での出荷予定となっておりますので、中間期では大いに業績に貢献するものと期待しております。

その他取引先に関しましては、前年同期は、既述の韓国企業からの手数料収入 100 百万円がございましたので、その影響を除いて考えれば、ほぼ横ばいの実績となっております。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	平成 17 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)		平成 18 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率	参考 平成 17 年 6 月期 (通期)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA自動抽出装置等	323	49.7	376	57.6	16.3	1,928	60.0
その他理化学機器	26	4.0	27	4.2	3.6	81	2.5
その他製品	43	6.7	49	7.6	12.6	221	6.9
商品(プラスチック消耗品)	156	24.1	200	30.6	28.1	679	21.1
その他営業収入	100	15.4	-	-	-	304	9.5
合計	650	100.0	653	100.0	0.4	3,215	100.0

DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の国際特許技術であるマグレーション・テクノロジーを利用した自動化装置の区分であり、DNA自動抽出装置の他、免疫化学発光測定装置も含んでおります。DNA自動抽出装置に関しては、バイオ研究分野の進展に伴い、多検体の短時間処理が必要となってくるため、その需要は拡大していくものと当社では考えております。

当第1四半期は、主力OEM先であるロシグループを中心に順調な出荷となり、189台の販売実績で売上高376百万円(前年同期比16.3%増)となりました。例年、夏場を含む第1四半期は、出荷が低調となる傾向がありますが、その中においては堅調に推移したものと考えております。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。なお、装置単価は機種により1台あたり百万円台から1千万円以上までの品揃えがあるため変動しております。

(単位:台、千円)

	平成 16 年 6 月期				平成 17 年 6 月期				当期
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期
販売台数	89	101	161	297	150	232	232	287	189
販売金額	255,781	223,112	373,304	870,924	323,644	466,443	519,854	618,781	376,358
販売単価	2,874	2,209	2,318	2,932	2,157	2,010	2,240	2,156	1,991

その他理化学機器

当区分は、研究施設などで利用される各種自動化機器の他、各省庁やその外郭団体などからの受託開発事業の区分であります。

当第1四半期は、売上高27百万円(前年同期比3.6%増)となりました。当区分の売上高は、特注システムの受注動向によって大きく変動いたしますが、現在はDNA自動抽出装置等の事業拡大に注力しておりますので、当区分の売上高に占める割合は低下していくものと考えております。

その他製品

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ(交換部品)販売、自社販売のDNA自動抽出装置等に使用される核酸抽出・精製のプレパック試薬、ソフトウェア開発などの区分であります。

当第1四半期は、売上高49百万円(前年同期比12.6%増)となりました。装置メンテナンスやスペアパーツ販売などは、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、当区分の売上高は、順調な伸長が期待できるものと考えております。

商品(プラスチック消耗品)

当区分は、装置の使用に伴い消費されるチップやカートリッジなどのプラスチック消耗品の区分であります。当社のDNA自動抽出装置等に使用される専用のプラスチック消耗品が中心となっております。

当第1四半期は、売上高200百万円(前年同期比28.1%増)と順調な増収となりました。プラスチック消耗品は、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後も順調な伸長が期待できるものと考えております。

その他営業収入

前年同期は、既述の独占販売権の付与契約に係る収入がありましたが、当第1四半期は、そういった収入がありませんでした。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年6月期第1四半期	4,559	2,807	61.6	67,698	38
17年6月期第1四半期	4,519	2,994	66.3	72,213	11
(参考)17年6月期	4,636	3,107	67.0	74,948	14

(注) 期末発行済株式数 18年6月期第1四半期 41,468株 17年6月期第1四半期 41,468株 17年6月期 41,468株

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期における総資産は、前連結会計年度末に比べ76百万円の減少で4,559百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が300百万円の増加、受取手形及び売掛金が170百万円の減少(前連結会計年度末の大口案件の入金などの影響)、たな卸資産が109百万円の増加(㈱三菱化学ヤترون向け「PATHFAST」の海外販売に対応した積上げなどの影響)となり、全体では177百万円の増加で3,595百万円となりました。固定資産は、減損会計の適用などにより、全体で253百万円の減少で964百万円となりました。

流動負債は、買掛金が78百万円の増加(「PATHFAST」に関連した仕入れなどの影響)、一年内返済予定の長期借入金が31百万円の増加、短期借入金が100百万円の減少となり、全体では31百万円の減少で875百万円となりました。固定負債は、千葉銀行引受による私募債発行を行ったことなどに伴い255百万円の増加で876百万円となりました。

自己資本は、当第1四半期の赤字計上、減損会計の適用によりなどにより300百万円減少し2,807百万円となりました。自己資本比率は61.6%となっており、前連結会計年度末の67.0%からは低下いたしましたが、特段問題ない水準であります。

3 平成18年6月期の連結業績予想(平成17年7月1日～平成18年6月30日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	円	銭
中間期	1,650	40	280	6,752	19
通期	3,550	30	270	6,511	04

[業績予想に関する定性的情報等]

第1四半期末時点で、㈱三菱化学ヤترونからの受注を含めて、DNA自動抽出装置等の受注残高は752百万円(前年同期比39.4%増)となっており、今後3~4ヶ月程度で出荷していく予定となっております。これにプラスチック消耗品などの販売も加わりますので、第2四半期での順調な売上計上が見込まれます。また、販売費および一般管理費などの経費面もほぼ計画どおりに進んでおります。したがって、当初の業績予想の範囲内にて進捗しておりますので、平成17年8月12日の決算発表時に公表した業績予想に変更はありません。

第1四半期連結財務諸表

(1) 第1四半期連結貸借対照表

区分	前第1四半期末 (平成16年9月30日)		当第1四半期末 (平成17年9月30日)		前連結会計年度末 (平成17年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
(資産の部)						
流動資産						
1 現金及び預金	2,198,803		2,313,610		2,012,719	
2 受取手形及び売掛金	490,522		527,858		698,218	
3 たな卸資産	617,352		717,927		608,364	
4 その他	100,967		36,131		98,817	
5 貸倒引当金	146		179		354	
流動資産合計	3,407,499	75.4	3,595,347	78.9	3,417,767	73.7
固定資産						
1 有形固定資産						
(1) 建物及び構築物	343,727		331,673		421,858	
減価償却累計額	73,669	270,058	38,745	292,927	86,819	335,039
(2) 機械装置及び運搬具	416,297		306,249		424,247	
減価償却累計額	249,071	167,225	205,911	100,337	287,048	137,198
(3) 工具器具及び備品	363,879		424,310		492,970	
減価償却累計額	180,732	183,147	238,597	185,712	253,593	239,377
(4) 土地		431,250		329,893		450,622
(5) 建設仮勘定		2,500		-		-
有形固定資産合計	1,054,180	23.3	908,871	19.9	1,162,237	25.1
2 無形固定資産						
(1) ソフトウェア	36,666		29,387		30,770	
(2) その他	1,019		1,019		1,019	
無形固定資産合計	37,685	0.8	30,406	0.7	31,789	0.7
3 投資その他の資産						
(1) 投資有価証券	18,659		22,746		19,948	
(2) その他	1,632		2,340		4,315	
投資その他の資産合計	20,291	0.5	25,086	0.5	24,264	0.5
固定資産合計	1,112,157	24.6	964,364	21.1	1,218,292	26.3
資産合計	4,519,656	100.0	4,559,712	100.0	4,636,059	100.0

区分	前第1四半期末 (平成16年9月30日)		当第1四半期末 (平成17年9月30日)		前連結会計年度末 (平成17年6月30日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
(負債の部)						
流動負債						
1 買掛金	203,069		396,025		317,362	
2 短期借入金	-		-		100,000	
3 一年内返済予定の長期借入金	484,390		355,115		323,688	
4 未払金	141,106		69,897		95,490	
5 未払法人税等	3,092		8,803		20,465	
6 賞与引当金	15,850		17,223		9,124	
7 その他	30,516		28,455		40,758	
流動負債合計	878,026	19.4	875,521	19.2	906,890	19.6
固定負債						
1 社債	-		250,000		-	
2 長期借入金	647,097		622,857		619,034	
3 繰延税金負債	-		1,595		465	
4 その他	-		2,421		1,718	
固定負債合計	647,097	14.3	876,874	19.2	621,219	13.4
負債合計	1,525,123	33.7	1,752,395	38.4	1,528,109	33.0
(資本の部)						
資本金	2,024,978	44.8	2,024,978	44.4	2,024,978	43.7
資本剰余金	2,491,267	55.1	2,491,267	54.6	2,491,267	53.7
利益剰余金	1,521,604	33.6	1,728,570	37.9	1,414,205	30.5
その他有価証券評価差額金	12,805	0.3	2,354	0.1	686	0.0
為替換算調整勘定	12,697	0.3	17,286	0.4	5,222	0.1
資本合計	2,994,533	66.3	2,807,316	61.6	3,107,949	67.0
負債・資本合計	4,519,656	100.0	4,559,712	100.0	4,636,059	100.0

(2) 第1四半期連結損益計算書

区分	前第1四半期 (自平成16年7月1日 至平成16年9月30日)			当第1四半期 (自平成17年7月1日 至平成17年9月30日)			前連結会計年度 (自平成16年7月1日 至平成17年6月30日)		
	金額(千円)	百分比(%)		金額(千円)	百分比(%)		金額(千円)	百分比(%)	
売上高		650,756	100.0		653,226	100.0		3,215,600	100.0
売上原価		381,439	58.6		384,378	58.8		1,706,305	53.1
売上総利益		269,316	41.4		268,848	41.2		1,509,295	46.9
販売費及び一般管理費		317,833	48.8		338,487	51.8		1,376,429	42.8
営業利益又は営業損失 ()		48,516	7.4		69,639	10.6		132,865	4.1
営業外収益									
1 受取利息	1,120			561			4,178		
2 受取配当金	8			-			25		
3 為替差益	11,746			5,312			-		
4 雑収入	947	13,823	2.1	1,348	7,222	1.1	5,186	9,390	0.3
営業外費用									
1 支払利息	7,389			6,178			26,247		
2 為替差損	-			-			4,036		
3 社債発行費	-			4,750			-		
4 その他	172	7,562	1.2	-	10,928	1.7	335	30,619	0.9
経常利益又は経常損失 ()		42,255	6.5		73,345	11.2		111,636	3.5
特別利益									
1 固定資産売却益	-			258			966		
2 貸倒引当金戻入	-	-	-	213	471	0.1	-	966	0.0
特別損失									
1 固定資産売却損	115			-			115		
2 固定資産除却損	-			43			1,776		
3 投資有価証券評価損	-			-			12,668		
4 減損損失	-	115	0.0	237,503	237,546	36.4	-	14,560	0.5
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()		42,370	6.5		310,421	47.5		98,043	3.0
法人税、住民税及び事業税		660	0.1		3,943	0.6		33,674	1.0
当期純利益又は当期純損失()		43,030	6.6		314,364	48.1		64,368	2.0